

七月二十四日

七時過、下で物音がするので何かと思えば左官屋であった。都内では工事は九時前からんだけど、働き者の職人は早朝から仕事したいのだろう。森田さんなんかは朝は三時半に目覚めちゃう、と言っただけだ。職人の規律と一般的な都市生活者の規律はズレているのだが、一律に約束事は決められてしまっからね。八時四十五分新宿。四名で利根町へ。十時過取手着。佐藤さん出迎え。蛟もう神社隣の民家へ。笑う農園実施予定地の四反部の土地を見て、戻る。平坦な四反は広い。利根町あたりでは農家は大体一反百万円位で畑を手離しているようだ。東北では結城氏によれば一反六〇万円だから、まあ理解できない数字ではない。約二十名程度の百人スクールのメンバーが集まって、バーベキュー大会。良い民家と作業所で、ここを百人スクールの拠点にできたらイイネ。風が良く抜けて気持ち良い。先程訪ねた矢尻塚の風を思い起こす。ヤキソバ、野菜、ビール、西瓜等を腹一杯いただく。眠くなって、民家に入り込み三〇分程眠る。百人スクール農園の将来等を話し合い、十四時過会は修了する。十五時過石川よう子さんの小農園訪問。石川さんは百人スクールの初回からの参会者で、何度か強い印象を持っていた。いつも、前に出ようとはしないのだが、後でしっかり支えてくれているような、そんな感じ。何か背骨がしっかりしている感じがあって、一度訪ねてみたいと考えていた。案の定、石川さんの一・八反の菜園は見事なモノでゴーヤ、ズツ

キー二、ナス、トマト、中国菜、ブドウ、西瓜等多彩な野菜が栽培されていた。畑の中央に気持ちの良い小屋が建てられていて、近所の人やクラスメートの会所になっている。石川さんは七十三才だが、やはり、これだけの見事な菜園を作られているだけあって元氣そのもの、まさに、これからの高齢社会の理想的なライフスタイルを、体現している人である。東北の結城登美雄が語り百姓であるなら、石川さんは、すでにその理想を体現している風があった。利根町は、この石川さんの菜園をモデルにして、一〇〇人の共同菜園運動を繰り広げれば良い。スクール主催の朝市、朝塾もしたら良い。十七時取手駅でビールを飲んで、二〇時頃世田谷村に戻る。夜、雄大の友人のスワ君来て宿泊。

七月二十五日 日曜日

朝食、スツポソカユ。昨日、利根町の石川菜園からいただいたきた野菜は昨夜すぐ喰べたが、その残りを食す。これは勿論、農薬を使用しない有機農法によるものである。十時二十八分発あさまで、軽井沢へ。磯崎新宅でソバをこちそうになる予定。十二時前、三笠山中の磯崎宅に着く。磯崎夫妻とコーヒー。十三時車で下山し、ソバ屋へ。磯崎さん愛用のソバ屋らしい。地酒を冷酒でいただく。これは美味。ダテマキ卵も柔らかく出来ていた。ソバは二種類。十五時前、三笠に戻り、磯崎さんはトリエンナーレの打合わせ。私は昼寝。まことに申し訳ない。利根町、猪苗代、古川の農園ネットを作れないかのアイデア浮かぶ。磯崎宅で読もうと考えていた辺見庸の「もの食う人々」読む。開高健の文体と似ているが、違う。同様にジャーナリストの嗅覚を感じるが、似ているようで、違うのだ。何故、磯崎宅で読もうと考えたのか、不思議。開高、辺見共に磯崎とは異なる世界の人だと思っが。十

九時夕食。七名。昨日、大分のギャラリーのシェフが来て、料理を作ったそうで、その五穀リゾットが美味であつた。ほおづきを初めて喰べた。佐賀牛も。二十一時頃、東京へ二人戻り、二十時半頃まで、夫妻と家内を交えて談笑。磯崎さんは精神も肉体も、老いていない。